

関西支部第15回夏季大学受講生募集

——自然災害の科学——

期 日：1993年7月27日（火）～7月28日（水）

場 所：大阪市天王寺区石ヶ辻町19番12号
なにわ会館（3階「葛城（東）」）

受講料：3,500円（テキスト代含む）

申込方法：住所・氏名・年齢・勤務先・電話番号を明記し、現金書留または郵便振替で受講料を添えて申し込んでください。受付後受講票をお送りします。
（郵便振替口座 大阪8-18318
日本気象学会関西支部
定員100名（定員に達し次第締め切ります）

申込先：〒540 大阪市中央区大手前4丁目1番76号
大阪合同庁舎第4号館
大阪管区気象台内
日本気象学会関西支部
（Tel. 06-949-6323）

申込締切：1993年7月16日（金）

主催：日本気象学会関西支部

後援：大阪府教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、大阪府教育委員会、大阪管区気象台

	10時00分～11時50分	13時00分～14時50分	15時00分～16時50分
7月27日 （火）	「雷雲に伴う諸現象」 —落雷・降雹・突風・竜巻— 小元 敬男 （大阪府立大学農学部教授）	「集中豪雨・豪雪」 浅井 富雄 （広島大学総合科学部教授）	「台風のはなし」 島村 泰正 （京都地方気象台長）
7月28日 （水）	「近畿の地震と津波」 尾池 和夫 （京都大学理学部教授）	13時30分～15時00分 気象台見学 （異常気象等で中止の場合もあります。）	

編集後記：気象庁に限らず、昨今お役所の企画の多くは「高度情報化社会」と「多様な国民のニーズ」を自明の原理としています。ややもすると枕詞と化して説得力に欠けるきらいもあります。

バブル経済が一時的にせよ崩壊しました。この間、消費の低迷や時短の推進など社会の表層を論ずるまでもなく、人々の指向は「情報」から「実体験」に、「大衆化」から「個別化」に明らかに変わっています。従って、「高度情報化」と「ニーズの多様化」は同時現象ではなく、むしろ逆位相関係にあるとみるべきでしょう。諸般の計画に弱さがあるとすれば、このあたりの錯覚に原因があります。

気象業務にあっても、「高度に情報化」する前に「情報を高度化」する努力が望まれますが、技術が充実した結果として情報が高度化するのであり、その逆では

ありません。また、業務を企画する立場の人々が連日の深夜残業や休日出勤では、最も身近な国民である家族のニーズさえくみ取る余裕はないでしょう。マスメディアの情報は企業のニーズの反映にすぎませんから、所詮国民のニーズとは異質のもので、生活大国の実現にむけて、地域やサークル等職域外の人々と交流することの重要性、及びそのための生活のゆとりの必要性が強調される所以でもあります。

私事ながら、名古屋地方気象台に転動しました。地方には独自のニーズがあり、埋もれた情報も多くあります。バブル崩壊のいま、ようやく言いたい事が言え、本音で語りあえる百花繚乱の時節。「宝の山」と「堀る道具」（3月号本欄）が誌上に結集して実を結ぶことを願ってやみません。

（高杉年且）